

地質情報展2008 あきた 秋田の活火山 -火山 その噴火の驚異とめぐみ-

及川 輝樹¹⁾・古川 竜太¹⁾・下司 信夫¹⁾

日本には多くの火山がありますが、普段の生活では意識することが少ないためか地元の人も身近な山が火山であることを忘れがちです。地質情報展では、2007年の北海道から地域の活火山を紹介する企画を充実させてきました。身近な火山を美しい写真と地質図で紹介する展示です。情報展が全国を一巡りして展示ポスターを束ねると・・・日本の火山の図鑑ができるはず。秋田での展示はどんな様子だったのでしょうか。展示の概要と会場の様子を報告します。

ポスター展示

ポスターは、2枚1組で一つの火山を説明することを原則とし、1枚目は各火山の地質図、美しい写真、活動の概要の展示を、2枚目は最近の噴火について写真や歴史記録を使って紹介を行いました。今回、とりあげた火山は、秋田にある4つの活火山、十和田、秋田焼山、秋田駒ヶ岳、鳥海山です。それらに導入的なポスターを2枚加え展示を構成しました(写真1, 2)。また、火山ごとにキャッチコピーをつけ、全

体を通して同じデザインの図やアイコンを使用し統一感を持たせるようにしました(第1図)。噴火の写真は迫力があるせいか、さほど興味がなさそうにしていた人も足を止めてくれます。また、写真にまして歴史時代に描かれた絵図に興味を示す人が大変多かったようです。写真より人間が描いた絵の方に関心が大きいとは驚きでした。来場された年配の方々には実際に噴火を体験した方もおり、噴火見物に出かけた話や噴火の話(秋田駒ヶ岳では見物客目当ての屋台が出た)など興味深い話も聞くことができました。

ミニ実験コーナー

ポスター展示の前には机の上に実際に火山から噴出した岩石や軽石を展示し、誰でも自由にさわってもらえるようにしました。さらに、軽石については、それぞれを水に浮かせ、その軽さを実感してもらえるようにミニ実験コーナーを設けました。こんな簡単な実験でも小学生以下の子供達は大喜びです。浮きそうにない大きな軽石がプカプカ浮くのは面白いらしく大人



写真1 ポスター展示会場の様子。ミニ実験コーナー(右側)をポスターの前に設けた。



写真2 ポスター展示。係員が前で説明。

1) 産総研 地質情報研究部門

キーワード: 地質情報展2008あきた, 活火山, 秋田, 十和田, 秋田焼山, 秋田駒ヶ岳, 鳥海山



第1図 展示したポスターの一部。図・写真を多用し、キャッチコピーをつけた。

気でした。もっとも子供は水遊びが好きだということもありますが、軽石が浮くことに興味を持った子供達に軽石の穴の原因となった火山ガスの話やそれが火山噴火の大きな原動力になっていることなどを噴火の写真を使って説明すると、展示にも興味を持ってくれます。また展示を見ていた大人達も軽石の穴にそんな意味があったのかと興味を示します。大人は展示説明を熱心に読みますが、子供の興味は実演や実験のみで終わることが大半です。しかし、この簡単な実験をきっかけにその両方に興味を示してくれました。また、展示の説明をする我々も会話・質問のきっかけがつかめるなどの利点を得られ、来場者と説明者がインタラクティブな関係になるための道具として、このようなミニ実験コーナーは大きな役割を果たすと思われます。さらに、来場者もただ展示を見るだけよ



写真3 キッチン火山学「お麩の噴火(火山灰)実験」, 噴火中!



写真4 火山弾, 知っている? お麩の噴火実験前の説明.

り後々まで印象深い体験となるのではないのでしょうか。

今回、火山関係では、会場のステージ上で日に3-4回、より規模の大きい実験も行いました。秋田といえばキッチン火山学の開祖で「世界一おいしい火山の本-チョコやココアで噴火実験」(小峰書店)の著者、秋田大学の林信太郎教授の本拠地です。そこで林研究室と共同でキッチン火山学の実験を行いました(写真3, 4)。実際に実験を行ってもらった林研究室の栗山さんに体験記を書いていただきましたので、そちらもあわせてお読み下さい。

OIKAWA Teruki, FURUKAWA Ryuta and GESHI Nobuo (2009): A section for "Active volcanoes in Akita prefecture" in the Geoscience Exhibition in Akita 2008.

<受付: 2009年3月3日>